

登録番号	プロトコール名			
C90071B1	多発性骨髄腫 DaraVMP療法 (C2-9)			
診療科	血液内科	1クールの日数	42日	
審査日	2021年1月25日	所要時間	220分	適応外使用 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
適応病名	多発性骨髄腫	放射線療法	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
実施部署	<input checked="" type="checkbox"/> 外来 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟 <input type="checkbox"/> その他()			
適応分類	<input checked="" type="checkbox"/> 初発 <input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発 <input type="checkbox"/> 術後補助 <input type="checkbox"/> 術前補助 <input type="checkbox"/> その他()			
番号	抗がん薬名	1日投与量	投与方法	投与日(d1, d8等)
1	ダラツムマブ(ダラザレックス)	16mg/kg	div	d1,22
2	ボルテゾミブ(ベルケイド)	1.3mg/m2	sc	d1,8,22,29
3	メルファラン(アルケラン)	9mg/m2	po	d1-4
4	プレドニゾロン(プレドニン)	60mg/m2	po	d2-4
5				
6				
7				
8				
エビデンスレベル	<input checked="" type="checkbox"/> 治療 (エビデンスレベル <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6)			
ガイドライン文献名	造血器腫瘍ガイドライン2018年版. Lancet 2020;395:132-41			
その他(減量・増量規定、プロトコールに関する補足説明など)	【増減量基準】添付文書の記載に従う。			

プロトコールに関する解説	
<p>プロトコールに関する解説はありません。</p>	

がん化学療法処方

プロトコール名		1クールの日数	
多発性骨髄腫 DaraVMP療法 (C2-9)		42日	
投与日	薬品名 (※赤字は抗がん薬)	投与経路	投与時間
d1,22	① ソル・コーテフ注射用200mg+生理食塩水50mL ② 生理食塩水「ヒカリ」50ml(フラッシュ用) ③ ダラザレックス点滴静注 16mg/kg +生理食塩水 * 投与1時間前までに、カロナール400mg,d-クロルフェニラミン酸塩徐放錠6mg、レナデックス20mgを内服する。問題なければ15分前まで短縮可。 0.2μmのインラインフィルターを使用する。 調製後15時間以内に投与終了。 ④ 生理食塩水「ヒカリ」50ml(フラッシュ用) ⑤ ベルケイド注射用 1.3mg/m ² + 生理食塩液 0.52mL/m ² ベルケイド1Vを生食1.2mLで溶解。 生食溶解後の濃度は2.5mg/mL。 投与の際は、同一コース内での同じ部位への皮下注射は避け、 投与部位をローテーションする。 (右腹部→左腹部→右上腕→左上腕→右大腿→左大腿など)	点滴静注 点滴静注 点滴静注 点滴静注 皮下注射	15分 5分 5分
d8,29	① ベルケイド注射用 1.3mg/m ² + 生理食塩液 0.52mL/m ² ベルケイド1Vを生食1.2mLで溶解。 生食溶解後の濃度は2.5mg/mL。 投与の際は、同一コース内での同じ部位への皮下注射は避け、 投与部位をローテーションする。 (右腹部→左腹部→右上腕→左上腕→右大腿→左大腿など)	皮下注射	
d1,22	カロナール400mg + d-クロルフェニラミン酸塩徐放錠6mg + レナデックス20mg ダラザレックス投与1時間前までに内服。問題なければ15分前まで短縮可	内服	
d1,2,3,4	アルケラン 9mg/m ² 1日1回	内服	
d2,3,4	プレドニン60mg/m ² 1日1回	内服	
	* ダラザレックスの希釈・投与速度について; 生理食塩液を用いて希釈後の総量を500mLとし、100mL/時の投与速度で点滴静注を開始。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら投与速度を以下のように変更することができる。 ただし、投与速度の上限は200mL/時とする。 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間: 100 1~2時間: 150 2~3時間: 200 3時間以降: 200		
プロトコール適応時 表示コメント	ダラザレックス投与1時間前までにレナデックス20mg+d-クロルフェニラミン酸塩徐放錠6mg+カロナール400mg内服する。問題なければ15分前まで短縮可。 d1-4にアルケラン9mg/m ² を内服、d2-4にプレドニン60mg/m ² を内服する。		
照射併用時 照射線量	グレイ (備考欄:)		